

■細川政元 武將。<応仁の乱>期に成長して、特異な性格に育ち、<明応の政変>で幕府の実権を掌握するも、悲劇的最期に。

ほそかわまさもと

・・・・・・1466＝ 山名持豊(宗全)の養女を母に、三管領家の一つ細川家勝元の嫡子に生まれる。

応仁の乱始・1467＝ 1歳：直後に、応仁の乱が勃発し、父勝元が東軍の大將、山名持豊が西軍の大將という事態になり、

幼名の聡明丸通り、聡明であったという。

足利義政隠居1473＝ 7歳：父勝元の病死で家督を継ぎ、摂津、丹波、讃岐、土佐の守護に就任。

加賀一揆始・1474＝ 8歳：東軍のトップとして、山名持豊の後を継いだ西軍トップ政豊と講和し、

・・・・・・1475＝ 9歳：

応仁の乱終・1477＝11歳：応仁の乱は終結。

・・・・・・1478＝12歳：元服し、將軍義政の一字を賜って、政元を名乗る。

・・・・・・1480＝14歳：足利成氏から幕府との和解斡旋を頼まれる。

義政政権放棄1482＝16歳：畠山義就と和す。

守護代クラスの家臣団の結束を背景に、將軍権力の強化を図る足利義尚に抵抗し、

銀閣寺造営始1484＝18歳：

山城国一揆・1485＝19歳：

太田道灌暗殺1486＝20歳：短期間、管領。

・・・・・・1487＝21歳：短期間、管領。

加賀一揆支配1488＝22歳：

銀閣寺完成・1489＝23歳：將軍足利義尚が近江の陣中で病没すると、義尚の従兄清晃(のちの義澄)の擁立を図るが、

足利義政没・1490＝24歳：短期間、管領。義尚の母日野富子と政敵畠山政長が擁立した義材(のちの義植)が將軍になって敗れ、以後、ことごとく対立。義材が政長を管領にして、政権から外されると、緻密なクーデターの計画を立て、若い頃から修験道に凝っていて、女人禁制で子ができず、周囲の嘆願で、関白九条政基の末子を猶子とし、自らの幼名と同じ聡明丸と名乗らせるた後、

大内義興入京1491＝25歳：家臣をして、政長を敗死させ、將軍義材を廢立して、清晃を將軍義澄とし、幕府の実権を一手に掌握。

明応の政変・1493＝27歳：*新將軍義澄の加冠に際し、管領に就任、細川家のみが管領となる道を開いて、半將軍と呼ばれるほどになるが、畠山尚順をはじめ遠国大名の離反を招き、幕府が矮小化し、戦国時代本格化の契機にもなる。

施政の前半は幕府の諸機構を自己の勢力下に収めるなど専制化に意欲を見せたが、修験道に本格的に凝り出して、突然、仕事を放棄したり、日ごろ特異な姿をして、不審がられるようになるなか、

・・・・・・1502＝36歳：

・・・・・・1503＝37歳：*分家の阿波細川家成之の孫を猶子に迎えて、澄元と名乗らせ、最初の子聡明丸を廢嫡(のち元服して澄之となる)したため、両者間に家督紛争が生じ、被官層が分裂して争い始め、その上、別の分家野洲細川家からも養子をとって、細川高国と名乗らせてもおり、阿波細川家澄元が摂津守護に任じられ、家臣で、軍略に優れる三好之長が上洛してくると、廢嫡の遺恨を晴らそうとする澄之の家臣の香西元長から、原因者である以上に、異常者として狙われ、

細川政元殺害1507＝41歳：風呂場で行水中に*暗殺された。